

令和 6 年 5 月 1 日現在

機関番号：32665

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2020～2023

課題番号：20K01833

研究課題名（和文）自転車産業における国際的分業と協業の変遷・展開に関する研究

研究課題名（英文）A Study on the Transition and Development of the International Division of Labor and Cooperation in the Bicycle Industry

研究代表者

坂本 義和（SAKAMOTO, Yoshikazu）

日本大学・商学部・教授

研究者番号：70350288

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,200,000円

研究成果の概要（和文）：本研究課題では、計画の段階において想定する研究成果を、当該分野における国際ジャーナルでの発表とした。しかしながら新型コロナ・パンデミックの影響による海外渡航への制限などから大幅に計画を変更せざるを得ず、またそのため研究の進捗は、所記の計画から大幅な遅れを生じた。そのため本研究課題の研究成果としては、国際ジャーナルでの発表を念頭に置いたいくつかの国際学会ならびに国内学会での研究発表となった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

学術的意義としては、1970年代以降の製造業において顕著な動きをみせた国際分業などの傾向について、台湾の自転車企業の興隆と国際展開に着目することでアジアの企業側からの視点から検討を行なった。特に経営史の領域においては、オフショア生産や生産機能の切り離しを行った側のアメリカ企業に視点を置きたいわゆるポスト・チャンドラーの議論があるが、この議論に対するアジア側からの回答を提示することが意義となる。社会的意義としては、国際分業体制において成功を収めている台湾自転車企業を検討することが、いわゆる水平分業体制において遅れをみた日本製造企業に何らかの示唆を与えることができると考えられる。

研究成果の概要（英文）：The results of this research project were presented at several international and domestic conferences with the intention of publishing in international journals. In the planning stage of this research project, the expected outcome of the research was publication in an international journal in this field. However, due to restrictions on overseas travel caused by the new corona pandemic, the plan had to be drastically changed, and as a result, the progress of the research was significantly delayed from the plan as stated above.

研究分野：経営史

キーワード：グローバル・サプライチェーン 国際分業・協業 イノベーション 自転車産業 台湾

1. 研究開始当初の背景

本研究は、自転車産業における国際的な分業ならびに協業について、その変遷と現状を検討することを目的としたものであるが、この研究の開始当初の背景としては、次の通りであった。自転車製品を製造するにあたり企画、開発、部品製造、組立、販売の諸機能内の取引または諸機能間の取引が国家や地域を超えて分散して行われるいわゆるグローバル・サプライ・チェーンを国際的分業として念頭に置き、新製品開発に際し同じく国家や地域を超えて行われる諸機能内もしくは諸機能間での提携や協力関係を意味し、単独企業の領域を超えて企画・開発がなされるイノベーションを推進させるグローバルな企業間ネットワークを国際的協業として着目した。開始当初において、現在の状況と変わらず、このような国際的な分業ならびに協業に関しては、国際経営論、多国籍企業論、イノベーション・マネジメント、プロダクト・アーキテクチャ論、企業の境界の議論、経営史、国際経済学など多方面の学問領域において扱われているトピックであった。当時において、米国トランプ政権の自国優遇政策や英国のブリクジットといった保護貿易や自由貿易とは反対の動きが目立ち始めてきたものの、20世紀後半からの国際的経済体制のグローバル化の動きや知財権などの法制度の整備を追い風に国際的分業の展開に加速度が増しており、グローバルなサプライ・チェーンの整備や活用、さらにはグローバルな協力体制による新製品開発活動は、企業経営にとって引き続き競争優位を獲得するために必要不可欠な課題となっていた。当時において、また現在においても引き続き、グローバルな製品開発と展開の成功例は、垂直分解あるいは垂直非統合モデルとして着目され、20世紀後半までの米国や日本の大企業にとって主流と考えられていた垂直統合モデルに対しある種のアンチ・テーゼとして言及されることが多かった。

学術的には、経営史の大家である A. D. Chandler, Jr. による垂直統合によるサプライ・チェーンの自社による管理が優位性を生み出すといういわゆるチャンドラー・モデルに対し、20世紀後半以降のグローバルな展開における米国製造大企業の凋落とチャンドラー・モデルの終焉を提示した R. N. Langlois らによるポスト・チャンドラー・モデルが出現した。Langlois は垂直分解された企業間による市場取引が大企業による垂直統合型のサプライ・チェーンにとって代わるとし、また N. R. Lamoreaux, D. M. G. Raff, P. Temin はネットワーク型の企業間関係が垂直統合型にとって代わると主張した。他方、国際経営論の領域では G. Gereffi, J. Humphrey, T. Sturgeon が実証研究をベースにグローバル・バリュー・チェーンをいかにガバナンスするかについてのモデルを提示していた。そこでは諸状況に応じて市場取引から組織内(垂直統合)の形式が採用されるという、ポスト・チャンドラーの論者達の主張よりも相対的かつ状況適的な解が提示されていた。換言すれば、国際的な分業ならびに協業を推進にするにあたり、普遍的解としての特定のビジネス・モデルを提示することは難しいと言える状況にあった、というものであった(これは現在においても大きく変わるものではない)。

2. 研究の目的

本研究は、自転車産業の過去と現状において、どのような国際的分業と協業がなされてきたか、なされているかを明らかにすることを研究の目的とした。

上記のような国際的な分業ならびに協業に関する現状と先行研究に対する予備的見解を踏まえて、1)現状においてどの様に分業や協業がなされているのか、2)現状に至るまでどの様にそれらが構築されたのか、3)それらを統括する主体的な役割は存在するのか、する場合はどの立場の者が行っているのか、といった疑問点を研究課題として設定した。そしてそれらの検討に際し、将来的な普遍的解の提示や普遍的理論の構築の準備段階として、特殊性・特殊解を追求することとして特に自転車産業に着目したものである。

3. 研究の方法

本研究では、歴史的事実研究とインタビュー調査を中心に検討する予定であった。具体的には歴史的事実研究を遂行するための研究資料の確保として、本研究が対象とする地域である日本、台湾、ヨーロッパの企業や図書館、アーカイブに赴き資料の収集を予定した。また研究開始時に応募者は、在外研究で University of York に滞在し、そのデータベースを活用していたことから、令和2年度中に帰国した後も University of York を来訪し資料収集をすることを計画していた。インタビュー調査としては、特に Giant Manufacturing と Merida Industry といった台湾の自転車アSEMBリー企業を対象としてインタビューを行う計画であった。またまた可能であれば Giant Manufacturing が有している台湾、中国、オランダの工場、そして現在建設中であるハンガリーの工場、Merida Industry が有しているドイツの研究開発センターについて現地調査を試みたいと計画をしていた。

しかしながら令和2年より世界中で流行したコロナ・ウィルス・パンデミックの影響により海外での研究活動に大幅な制限が加えられた。研究実施期間の大半において海外渡航が実質的に

不可能であり、国内の移動においても制限が生じた。そのため所期の計画から大幅な変更を余儀なくされ、インタビュー調査は諦め、国内での資料収集に依拠した研究方法を採用した歴史的事実研究に特化した。

4. 研究成果

当初の計画においては、事業期間内に国内外の学会での発表を経て海外ジャーナルに投稿し、それをもって研究成果の公開とする予定であった。しかしながら上記の様にコロナ・ウィルス・パンデミックの影響から事業全体に遅れが生じ、研究の完成度ならびに完成時期に大幅な狂いが生じた。それでも海外ジャーナルへの投稿を念頭において幾つかの国内外の学会での発表を行うことができた。以下の学会発表ならびに学会発表で発表した論文を研究成果として挙げることができる。

【学会発表】

[2023]

- ・坂本義和 「1980年代における台湾自転車産業の展開 ～Giant社の企業行動を中心に～」 経営史学会第59回全国大会（熊本学園大学）2023年12月.
- ・Yoshikazu Sakamoto 'The Breakthrough of the Taiwanese Bicycle Industry in the 1970s and 1980s: Focusing on the Upgrading Path of Giant Manufacturing Co' Euro-Asia Management Studies Association the 39th Annual Conference, (Stockholm School of Economics, Sweden) 2023年11月.
- ・Yoshikazu Sakamoto 'The Breakthrough of the Taiwanese Bicycle Industry' SBS/CEGBI Summer Conference 2023, (School for Business and Society, University of York, U.K.) 2023年7月.

[2022]

- ・坂本義和「Giant社の企業成長に関する史的分析」アジア経営学会第28回東部部会, (立教大学) 2022年5月.

[2021]

- ・Yoshikazu Sakamoto 'Giant Enterprise: Giant Manufacturing' 2nd World Congress of Business History, (Online) 2021年9月.

【論文】

[2023]

- ・Yoshikazu Sakamoto 'The Breakthrough of the Taiwanese Bicycle Industry in the 1970s and 1980s: Focusing on the Upgrading Path of Giant Manufacturing Co' Proceedings of Euro-Asia Management Studies Association the 39th Annual Conference, pp.1-19.

[2021]

- ・Yoshikazu Sakamoto 'Giant Enterprise: Giant Manufacturing' Proceedings of 2nd World Congress of Business History, pp.1-51.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 Yoshikazu Sakamoto	4. 巻 -
2. 論文標題 The Breakthrough of the Taiwanese Bicycle Industry in the 1970s and 1980s: Focusing on the Upgrading Path of Giant Manufacturing Co	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Proceedings of Euro-Asia Management Studies Association the 39th Annual Conference	6. 最初と最後の頁 1-19
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yoshikazu Sakamoto	4. 巻 -
2. 論文標題 Giant Enterprise: Giant Manufacturing	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Proceedings of 2nd World Congress of Business History	6. 最初と最後の頁 1-51
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 井口知栄、坂本義和、臼井哲也	4. 巻 63
2. 論文標題 MHI Vestas Offshore Wind A/S インタビュー調査	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 三田商学研究	6. 最初と最後の頁 45-54
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計5件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 3件）

1. 発表者名 坂本義和
2. 発表標題 1980年代における台湾自転車産業の展開 Giant 社の 企業行動を中心に
3. 学会等名 経営史学会第59回全国大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Yoshikazu Sakamoto
2. 発表標題 The Breakthrough of the Taiwanese Bicycle Industry in the 1970s and 1980s: Focusing on the Upgrading Path of Giant Manufacturing Co
3. 学会等名 uro-Asia Management Studies Association the 39th Annual Conference (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Yoshikazu Sakamoto
2. 発表標題 The Breakthrough of the Taiwanese Bicycle Industry
3. 学会等名 SBS/CEGBI Summer Conference 2023, School for Business and Society, University of York (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 坂本義和
2. 発表標題 Giant社の企業成長に関する史的分析
3. 学会等名 アジア経営学会第28回東部部会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Yoshikazu Sakamoto
2. 発表標題 Giant Enterprise: Giant Manufacturing
3. 学会等名 2nd World Congress of Business History (国際学会)
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------